

達成度については、A 4点、B 3点、C 2点、D 1点と重みをつけて平均値を算出する。
「あてはまる」、「ややあてはまる」の回答を肯定的な回答として、その割合を表す。

【教職員】

- ・全体として、3.5ポイントを上回っている項目が、36項目中26項目ある。(前期も23項目で同じ。)その中でも、7「生徒の相談等には親身になって対応している。」、28「管理責任場所の安全管理を確実に実施している。」、30「学級や学年の様子を通信等で積極的に情報提供している。」、31「保護者会や面談等で学校の様子等を伝えている」、33「保護者からの連絡や相談に丁寧に対応している。」については、全ての教職員が「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答しており、どれも3.8ポイント以上と高い数値となっている。
- ・1「信頼される教師となれるように常に資質向上に努めている。」、4「基本的な生活習慣が身につけられるよう、指導をしている。」、5「問題行動やいじめに対して、基本計画に基づき適切に指導している。」、18「わかる授業、魅力ある授業を意識して取り組んでいる。」、19「思考力・判断力・表現力を身につけさせるための工夫を行っている。」の5項目については、我々教職員の職務を考えると、4ポイントにできる限り近づけられるよう意識を高くしていく必要がある。
- ・34「職業・福祉体験等の体験活動を積極的に行っている。」、35「ボランティア活動を呼びかけ、地域に貢献できる生徒を育てようとしている。」の2項目は、どちらも3ポイント程度の低い数値となっている。しかし、コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2年度から今年度前期までの間、この2項目は、ずっと3ポイントを下回っていたので、少しずつこの数値をさらに上げていくために、今後も体験的な学習を行事とタイアップさせる等の工夫と改善を図っていく必要がある。
- ・7「生徒の相談等には親身になって対応している。」及び33「保護者からの連絡や相談に丁寧に対応している。」については、4ポイントと全職員が「あてはまる」となっている。しかし、生徒の項目9「悩みや困ったことがあったら先生に相談している(しようと思う)。」は3.00ポイント(前期2.85)、保護者の項目5「学校は子どもの悩みや相談に親身になって対応している。」は3.12ポイント(前期3.15)と教職員の回答と数値に開きがある。生徒によっては、悩みや困ったことの相談相手を、先生ではなく、先生以外の誰かに相談している場合もあるため、このポイントの差だけで意識のずれがあるとは言えないが、我々教職員は、生徒が相談したい時に、相談できる環境作りと、表には出していないけれども悩んでいる生徒が一定数いることも忘れず支援に当たる必要がある。

【生徒】

- ・全体として、「あてはまる」、「ややあてはまる」と肯定的な回答が80%を越える項目は23項目中18項目（前期は15項目）あるが、今年度前期と比べ2%以上評価が上がった項目が12項目あり（前期は昨年度の前期に比べ2%下がった項目が15項目あった）、前期の数値を受け止め、より生徒への丁寧な対応、誠実な対応につながった結果と考える。特に3「夢を持っており、夢に向かって努力している。」は、大きく数値が上がっており、これは、校長からも学校教育目標である「夢をもち」をキーワードとして、意識的に職員にも、生徒にも会議や集会等で話してきたことが浸透してきていると考える。
- ・10～13の「あいさつ」「素直な心」「感謝の気持ち」「思いやり」についてや、14「学級の係や当番をしっかりと行っている。」、15「清掃活動を一生懸命取り組んでいる。」の項目は、肯定的な回答の割合が90%以上と高い数値となっている。この6項目は、学校教育目標の副題である「夢・心・汗」を多くの生徒が意識して活動しているといえる。ただし、反面「あまりあてはまらない」「あてはまらない」という生徒も若干名いるため、継続して生徒一人一人の心を耕す指導の工夫をしていく必要がある。
- ・前期では、昨年と比べ2%以上下がった6「部活動」、7「生徒会活動」、16「授業は楽しい」、18「家庭学習の習慣」、22「体力の向上」については、どれも2%以上上昇した。これは、前期の結果を受け、生徒の主体的な活動を意識的に推進し、生徒が主体的に考え、取り組む場面を意図的に設定し、褒める・認める等の評価を丁寧にする事で、生徒が日頃から小さな成功体験や自信を積み重ねられるよう支援したことがつながったと考える。ただ、18「家庭学習の習慣」、20「読書の習慣」については、全体からするとまだまだ低い数値といえるため、さらなる向上を目指した取り組みを検討していく必要があると考える。

【保護者】

- ・全体としては、19項目中16項目で「あてはまる」、「ややあてはまる」の肯定的な回答が80%を越えている（前期も16項目）。中でも、11「学校の施設・設備は、安全できれいに整っている。」、13「学校は保護者からの連絡や相談に対して、ていねいに対応している。」の2項目については、大きく上昇している。この2つの項目は、学校施設については、昨年からの課題であり、保護者へのていねいな対応については、前期、昨年と比べ大きく下降した項目だったので、学校の日々の小さな取り組みの積み重ねにつながったと考える。一方、9「読書活動」、12「体験活動」の2項目については、まだまだ低い数値といえる。今回の結果を受け止め、現状の取り組みを振り返り、改善に努めていくことが大切であると考え。

【学校評議員より】

- ・全体的に良好な数値といえる。特に、生徒・保護者・教職員ともに、前期の数値よりも上昇している項目が多くて良いと感じる。今後も、自信をもって学校（先生方）には、教育活動に取り組んでほしい。
- ・学校教育目標にある「夢をもち」の部分について、生徒項目「夢を持っており、夢に向かって努力している」の数値が、昨年度、今年度前期と少しずつ上昇しているので、その理由を確認し、継続した取り組みを期待したい。
- ・いくつかの行事を参観したが、生徒の発想や企画力に驚かされる。生徒の楽しそうな表情がとても良い。
- ・それぞれ生徒・保護者・教職員の項目の中に、共通した項目があるが、そのうちいくつかの項目について、保護者・生徒間（読書）、保護者・生徒・教職員間（悩み相談）で数値の差があるので、その点は分析して今後にかかしてほしい。
- ・以前授業を参観した際、どの授業も小グループで活動していた。小グループ「学び」の約束を提示して、学校として取り組んでいることはとても良いと感じる。
- ・PTA活動については、30周年記念事業として、PTAがイベント（謎解き）を企画して取り組めたことは、非常に良いと感じた。学校評価の数値からは、難しさを感じるが、学校と地域との連携については、今後も課題といえる。